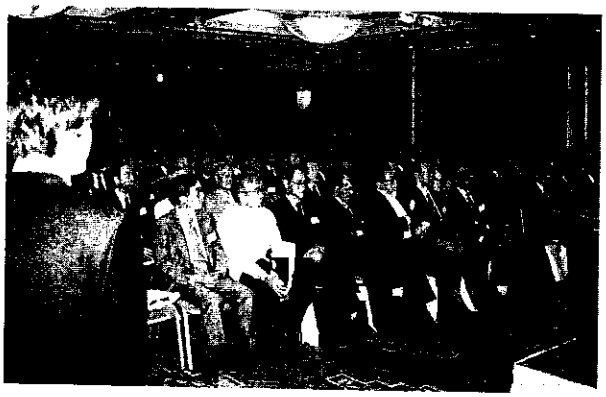
功労者表彰を受ける 橋　映吉氏

祝電・祝文披露のあと功労賞受章者12名に表彰盾が授与され、続いて長年連盟行事に協力されたクラブや企業五団体に感謝状が贈呈されました。

記念講演は、地元小樽商科大学の教授でもあり、SAJイグザミナーを務める中川　喜直氏による「小樽スキー連盟　誕生秘話」と題した講演では、旭川と小樽のスキー普及の目的が違うこと、地理的条件に優れた小樽では、民間にも瞬くうちに拡大したことなどが紹介され、大正12年に開催された第１回全日本スキー選手権大会の様子を貴重なビデオ映像で紹介するなど、スキー界草創期からの資料等も紹介しながら興味深い講演となりました。



講　演　風　景

式典終了後、直ちに隣接する祝賀会場に席を移し、「百年の宴の席（むしろ）」は開かれました。祝宴の進行は、2012年小樽で開催された「北海道スキー指導者協会創立60周年記念」の集いでお世話になった山本悌二氏の軽妙な司会で開始されました。

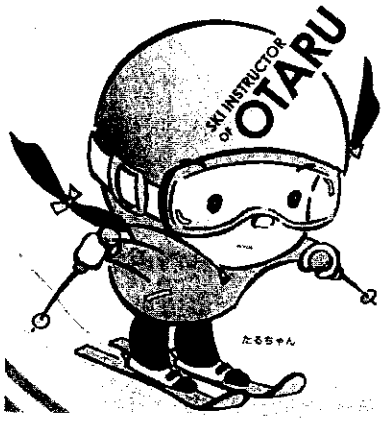
実行委員会を代表して青山実行委員長が「脈々たる歴史ある連盟の将来を担っていきたい」と熱い決意表明。宴の乾杯は、連盟顧問であり教育部の大先輩である毛利修三氏が声高らかに音頭をとり、宴の席は開かれました。

毛利顧問の乾杯の音頭で宴がスタート

会場では、元オリンピック選手、現役ナショナルデモ、元デモなどスキー仲間が久しぶりの再会を笑顔で交わす光景があちら、こちらで繰り広げられ、宴もたけなわに・・・・・

講演会で不調だったスライドもお酒の席では復活し、貴重な映像も紹介されました。

また、小樽スキー連盟のマスコットキャラクター「たるちゃん」のご披露もあり、17時過ぎ道指協の新会長に就任した藤島勝雄氏(苫小牧)から祝辞と挨拶が述べられ、締めの「シーハイル」三唱で宴の席はたたまれました。



マスコットの「たるちゃん」

会場を後にする関係者の手元には、小樽スキー連盟がプロジェクトを組んで製作した200頁を超える大作、小樽スキー連盟100周年記念